

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価		次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
学力の育成	(全校レベル) 1) 規律ある授業の実施に努め学習態度と意欲の向上に努める (下位組織レベル) 1) 基礎学力の向上を行う 2) 教科指導の充実とレベルアップを行う	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	○基礎学力の定着のために先生方が様々な工夫をされていることが授業満足度アップに繋がっている。 ○計画的な職員研修やマナトレ等を実施することで、生徒の学習意欲を向上させ、成果として現れている。 ○持続的に取り組まれていることが成果となっているように思う。	○基礎学力については、まだまだ十分ではない。これからの計画的・継続的な指導が必要である。特に個別指導については、教科担任・ホームルーム担任とさらに連携をとることにより効果的な指導を進めていきたい。 ○授業力向上に向けた職員研修会は、ICT活用も含めた内容を検討していきたい。
		1) 生徒の授業満足度調査 75%以上 2) 授業実施時間数の状況調査 1単位27時間以上 3) 生徒の成績状況調査 年1回以上 4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 80%以上 5) マナトレ(数学補習)実施状況調査 20回 C-Eランク 75%以上 6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 3回以上 授業力向上職員研修会 1回以上	1) 生徒の授業満足度調査 85.0% (昨年比 +7.4%) 2) 授業実施時間数の状況調査 27.2時間 3) 生徒の成績状況調査 年1回 4) 漢字検定実施状況調査 11回 5級以上 85.1%(昨年比+0.9%) 5) マナトレ 実施状況調査17回 C-Eランク75.9%(昨年比-5.6%) 6) 計画的な職員研修の実施状況 研究授業 6回 授業力向上職員研修会 1回	A B B B B	B (所見) 概ね計画通り実施できた。授業態度は年々良くなってきている。「授業を大切にしなければならない」という気持ちが生徒達に少しずつではあるが定着してきたようで、授業に対するアンケートでも満足度・理解度は、年々上昇している。 今年度も農業科・商業科ともに資格取得に頑張った生徒が多く、それが学習面にも好影響を与えている。		
		活動計画	活動計画の実施状況				
		1) 成績不振者に対するきめ細かな指導に努める。 2) 追試・補講を実施して強力に指導を行う。 3) 授業時間を集計し授業時間の確保に努める。 4) 漢字検定を実施して読み書き力の養成に努める。 5) 数学学び直しを実施して計算力の養成に努める。 6) 実力テストを実施して学力の実態把握を行う。 7) 年間指導計画を作成し、効果的な教育内容の構築を図る。 8) 教職員研修計画を作成し指導力の向上を図る。	1) 放課後や長期休業を利用し、個別指導を中心に行った。 2) 追考査、補講は計画的に実施した。 3) 出張、学校行事を精選し、授業時数の確保に努めた。 4) ショートホームルームや授業等を活用して全校的に取り組んだ。(年11回漢字検定) 5) 各ホームルーム3名教員を割当て、特設の時間(8:35~9:00)に、17回実施した。 6) 5月に実力テストを実施した。 7) 観点別評価のある年間指導計画を作成し、計画的に指導を行った。 8) 12月に授業力向上(キャリア教育に視点)に向けた職員研修会を実施した。また、延べ6回の研究授業を行った。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
学力の育成	(全校レベル) (1)読書力の向上を図る。 (下位組織レベル) (1)読書活動の推進に努める。 (2)読書環境の充実に努める。 (3)「読書の日」を設け意識の向上を図る。	評価指標 (1)校内図書館の読書冊数の増減率 10%以上 (2)読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間 10分以上 (3)蔵書数の増加率 5%以上 (4)図書室通信の発行 年6回以上 (5)「読書の日」の実施 年11回 (6)購入希望図書アンケートの実施 年10回	評価指標の達成度 (1) 校内図書館の読書冊数の増加率 10% (2) 読書の生活化プロジェクトⅢにおける家庭での平均読書時間16.4分 (3) 蔵書数の増加率 6% (4) 図書室通信の発行 年2回 (5) 「読書の日」の実施 年11回 (6) 購入希望アンケートの実施 年8回	総合評価 B (所見) 図書館利用者の人数は前年度より大幅に増加している。特に1年生の利用者数は多い。しかし、貸し出し数の増加は特定の利用者によるものであり、全く利用しない生徒も数多くいる。 また、不定期の休館日も多く、生徒が入りにくい状況になっている。 本年度から始めた、「読書の日」に教職員に本を紹介してもらう方法と、毎日の新聞から気になる記事をピックアップして図書室前に掲示することは教職員・生徒ともに好評であった。	○スマホなどの発達で読書指導がますます大変になってきていると思う。「読書の日」をいかに活用していくかが課題となる。 ○読書の得意でない生徒に対してどのように”クセ”付けを行うかが課題である。 ○スマホの普及により従来の図書館の機能が失われてきているが、この対応についても考える必要がある。	○図書室の展示等を工夫し、明るく本に注目しやすい図書館づくりをする。 ○他の図書館との協力貸出を実施する。 ○テーマを決めた読書啓発週間を設定し、図書室に特集コーナーを設ける。
		活動計画 (1)読書の日を毎月1回設定し、教職員に本を選定してもらう。 (2)家庭読書週間を設定し家庭への啓発を行う。 (3)生徒のニーズにあった図書を購入し蔵書の充実に努める。 (4)通信を通して、新刊図書など最新の情報を提供する (5)推薦図書コーナーの充実に努める。 (6) 購入希望図書アンケートをもとに購入した本のコーナーを設置する。	活動計画の実施状況 (1) 年11回実施し、9回教職員に紹介してもらった。 (2) 特別な家庭へ向けての啓発活動はできなかった。 (3) 購入希望調査アンケート箱を常設にし、常時リクエストを受けつけた。また即購入をした。 (4) 年2回にとどまった。 (5) ブックエンドを利用して、図書室での展示をわかりやすくした。 (6) 購入希望のアンケートをもとに購入できた本のリストや本の紹介文を図書室前に張り出だすなど生徒の興味を喚起しようとした。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	(全校レベル) (1) 基本的な生活習慣の確立を図る。 (2) 生命尊重の意識の高揚と交通事故の撲滅を図る。 (下位組織レベル) (1) 保護者との連携を密にし、相互理解の上で指導の充実を図る。 (2) 遅刻・欠席指導の徹底を図る。 (3) 身だしなみ指導の徹底を図る。 (4) 登下校指導を行う。 (5) 交通安全指導の徹底を図る。	評価指標 (1) 家庭への連絡実施回数 150回以上 (2) 遅刻者・欠席者の増減率 -20% (3) 身だしなみ検査延べ指導者数-20% (4) 車両定期点検の実施回数 5回以上 (5) 交通事故加害者数 0人	評価指標の達成度 1) 家庭訪問実施回数 234回 2) 遅刻者・欠席者の増減率 68% 3) 身だしなみ検査延べ指導者数32% 4) 車両定期点検の実施回数 5回 5) 交通事故加害者数 0人	総合評価 B (所見) 1年生の遅刻者が多く、高校生(社会人予備軍)としての自覚が足りないように思われる。1年生は欠席数も多く自分の進路に対して悩みや、迷いから欠席数が増えているように思われる。 身だしなみ指導では同じ生徒が繰り返し指導を受けることが多く、増加傾向にあるが指導には素直に従う。 交通安全指導、登下校指導等交通安全についての知識やマナーについては向上しているように思われる。	○一人一人の個性を把握し、基本的な生活習慣を1年生には早急に確立させ、学校・家庭両面からのサポートが必要である。そのために年度当初に家庭訪問に行き、家庭状況を把握し、保護者との連携が密になるようにしなければならない。 ○強いては、遅刻・欠席・身だしなみ指導者の現象に結びつくのではないかと思われる。 ○交通安全については警察と連携し、指導を充実させなければならない。また新しい取り組みとして、生徒自身による交通安全指導者(インストラクター)の要請にも力を入れていきたい。
		活動計画 (1) 家庭訪問を実施する。 (2) -1遅刻カードを使い確実に遅刻者を指導する。 (2) -2無断遅刻・無断欠席数調査を月末集計し、多い者への改善指導を徹底する。 (3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施して指導を徹底する。 (4) 車両登録をさせ、学期初めと学期終わりに安全点検と学期毎に集会を行い交通事故を未然に防ぐ。 (5) -1免有者に対して視聴覚教材を用いた指導を行う。 (5) -2登下校指導計画を作成し指導を行う。(あいさつ、遅刻、服装) (5) -3全教職員一斉による通学路の危険箇所における交通安全指導を行う。	活動計画の実施状況 1) 全生徒の家庭訪問を1年生は全員、2・3年生は昨年から継続して担任している者以外全員、1学期間中に行い、生徒の進路や通学路の危険箇所確認ができ、家庭との連携も深まった。 2) -1遅刻カードにより遅刻者の把握と指導を行った。 2) -2無断遅刻・無断欠席数調査を行い、改善指導を進めた。遅刻・欠席者の保護者との連絡を確実に取った。 3) 毎月初めに頭髪・服装等身だしなみ検査を実施した。授業前・授業後に身だしなみを整える習慣が身についた。 4) 車両登録・安全点検を学期初めと学期終わりに実施できた。学期毎に全校・学年集会で交通安全に関する注意を行った。 5) -1原付の免有者に対し、視聴覚教材を用いた安全運転啓発ができなかった。 5) -2指導計画により指導を行いあいさつの励行及び身だしなみ指導ができた。 5) -3通学路の危険箇所確認と交通マナーの向上が図れた。		

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成25年度 学校評価総括評価表

徳島県立三好高等学校 2-III・IV (教育相談課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力 (ソーシャルスキル)の育成	(全校レベル) (1)教育相談活動の充実と生徒支援に努める (2)生徒一人一人を理解し、個々の生徒のニーズに応じた支援を進める (下位組織レベル) (1)教育相談体制(特別支援を含む)の充実を図る。 (2)生徒理解を進めるために各種検査を効果的に実施する。 (3)特別支援教育職員研修の充実を図る。	評価指標 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 30日(回)	評価指標の達成度 (1)教育相談体制の充実 教育相談日を設けカウンセリングを行う。 30日(回)	評定 B 総合評価 B (所見) 教職員に対して親しみを感ずる生徒が増えたと思われる。さらに信頼関係を深め、相談しやすい体制をつくることが課題である。 各種検査結果を活かし生徒理解を深めることができた。 2回の特別支援教育研修を実施した。現実に即した事例研修だったので、学校教育と福祉行政とのつながりを理解できたという感想であった。 基礎学力向上へ向けてマナトレや漢字検定を組織的に取り組むことで、生徒がどこで困っているのかを把握することができた。また、積極的に取り組もうという生徒の姿勢が多く見られるようになった。 教科担任会等により、生徒の実態把握と共に教科担任間で連携した指導を行うことができた。 今後も一貫性を持った指導を実践できるよう支援体制を整えたい。	○教職員に対して親しみを感ずる生徒が増えていることはすばらしい。 ○教職員・生徒間の意識に落差がなく溝がないというのが理想であると思う。 ○生徒との信頼関係を構築することが大切であり、それがどんな事も相談できる体制作りに繋がる。 ○教職員に対して親しみを感ずる生徒が増えたところがあるが、とても大切なことと思う。先生は先生、生徒は生徒というケジメが必要だと思う。	○生徒が教職員に相談できる信頼関係をさらに育てることが課題である。そのため、生徒理解に努める。 ○教職員研修においては、教職員のニーズに応じた内容を設定できたと考え。さらに教育相談や特別支援に対応できるよう研修内容を工夫したい。 ○生徒のニーズに応じた支援が図れるよう関係機関との連携を深め、情報交換を行い、特別支援教育コーディネータが中心となって教科担任会などを継続的に開いていく必要がある。
		活動計画 (1)教育相談日を設けカウンセリングを行う。次のことに配慮する。 ①教職員への親しみやすさ ②教職員への相談の満足 ③教職員との信頼関係 (2)各種検査を実施し生徒の困難さに気づき、問題を把握し、問題解決に向けて取り組む。 (3)それぞれの生徒の能力を把握し、基礎学力向上に向けた取組を行う。 (4)校内での支援体制を整える。 (5)関係機関との連携を図る。	活動計画の実施状況 1) 毎週火曜日を教育相談日として学校行事に組み込みのべ15回実施した。 2) 各種検査結果をもとに学校生活や進路等で担任が気になる生徒に対しては個別に面談等を行った。 3) 毎週木曜日、朝のSHR時にマナトレを3人のチームティーチングで17回実施した。また、校内漢字検定を11回実施するなど生徒の基礎学力向上に向けた取組を行った。 4) 生徒支援支援体制の再構築を図り、教科担任会や学年会等で情報の共有を図れるよう改善策を講じている。 5) 関係機関との連携を図り、統一した支援が図れるよう対応を行った。今年度はハローワークや障害者就業・生活支援センターはくあいと、職場体験や進路の確保に連携できた。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1) 道徳教育と関連させ人権尊重の精神を基盤とした教育活動に努める。 (2) 日々の生活や研修等を通じ、教職員自身の人権意識の向上に努める。 (下位組織レベル) (1) 人権教育ホームルーム活動の充実を図る。 (2) 「学校人権の日」の取組の充実を図る。 (3) 人権教育教職員研修の充実を図る。 (4) 道徳教育ホームルーム活動の充実を図る。 (5) 道徳教育の視点を意識して学校行事を運営する。	評価指標 (1) 人権学習ホームルーム活動を年間5回実施し、生徒の理解度 90%以上 (2) 「学校人権の日」における人権学習についての生徒の理解度 90%以上 (3) 人権教育教職員研修における教職員の満足度 80%以上 各種研究会参加者 15名以上 (4) 道徳教育ホームルーム活動実施年間2回、行事計画書に道徳的視点の欄を設定する。	評価指標の達成度 1) 人権学習ホームルーム活動を年間5回実施、生徒の理解度92% 人権意識が高まったと答えた生徒90% 2) 「学校人権の日」における人権学習の生徒の理解度95%。89%の生徒が各自の人権意識をふり返ることができたと答えた。 3) 人権教育教職員研修における教職員の満足度80%。校外各種研究会参加者20名 4) 道徳教育ホームルーム活動年間2回実施。行事計画書の道徳的視点の欄設定100%	評定 総合評価 B 今年度の取り組みで人権意識が高まったと感じている生徒が9割を超えるなど、人権教育学習に対する生徒の理解度は高く、概ね目標を達成することができた。しかし、すべての生徒が積極的に活動し、人権課題を自分の問題として捉え、行動化できているとは言いきれない。 人権委員や人権研究部の生徒が各ホームルームで中心となって人権意識向上の啓発を行えるように、ボランティア活動や中高生人権交流集会に参加し基本的な知識を習得させることができた。自分の意見や考えを伝え、主体的に行動できるように繋げていきたい。 道徳教育に関しては、教職員全員でその内容を共有し、道徳教育の重点目標を意識した教育活動を、組織的・計画的に実践することができた。また道徳週間を設定し、授業前には各教科担任より道徳教育に関する講話を頂いた。	○人権問題を自分の問題として捉えるのは大変なことだと思う。 ○人権学習に対する理解度が高まっているのはすばらしいことである。 ○「学校人権の日」をどのように活用していくのかを考えていてもらいたい。 ○各種の行事に参加させ、行動させることにより、体験的に人権意識を体得させる必要がある。	○各学年において人権ホームルーム前には事前研修会を行うなど、形態を工夫し、内容を充実させ、知識の習得や理解から行動に結びつけられるような取組を実施したい。 ○生徒の自主活動をさらに活発化させ、学校人権の日や人権学習ホームルーム活動時に中心的存在となり積極的に取り組むことのできる生徒を育成する必要がある。 ○人間としての在り方生き方に関する道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行い、各課や各学年と連携しその充実を図る。
		活動計画 (1) 生活課員とホームルーム担任との連携で教材を作成し、ホームルーム活動の充実と推進を図る。 (2) 人権委員会(生徒)が主体的に「学校人権の日」を運営する。人権委員の事前指導を行い、当日の啓発の中心とする。生活ふり返りシートを実施し、人権意識をふり返る活動を行う。 (3) 人権教育教職員研修において講義形式による研修のほかに、ワークショップ形式や視聴覚教材等も利用した研修を行う。 (4) 道徳教育の視点を全教職員に提示し行事計画に道徳的視点を取り入れる。	活動計画の実施状況 1) 学年団と生活課との連携で、ホームルーム指導案を作成し、活動の充実と推進を図った。 2) 人権委員会が学校人権の日の司会進行を担当した。また、実施後の振り返りシートを毎回実施した。 3) 人権教育職員研修会を年2回実施した。本校の人権教育の課題について、生徒のアンケートより考察した。またスマートフォンアプリに起因する人権侵害の防止やその対処法について研修を行った。 4) 学年団と生活課との連携で、道徳教育ホームルーム指導案を作成、学校全体でホームルーム活動の充実と推進を図った。また、道徳教育週間を実施した。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と																	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策																	
生活力の育成	(全校レベル) (1)特別教育活動の充実を図る	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標の達成度</th> <th>評定</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td>(1)ホームルーム活動満足度 80%以上</td> <td>(1)ホームルーム活動満足度77.8%</td> <td>B</td> <td rowspan="4">B</td> </tr> <tr> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上</td> <td>(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 79.1%</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上</td> <td>(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6.4回</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の加入状況 80%以上</td> <td>(4)部活動の加入状況 74.7%以上</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価	(1)ホームルーム活動満足度 80%以上	(1)ホームルーム活動満足度77.8%	B	B	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 79.1%	B	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6.4回	B	(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 74.7%以上	B	<p>(所見) 全体的には概ね目標を達成できた。</p> <p>特に体育祭や楓祭などの学校行事では生徒会和教職員が連携して活動した結果、生徒も意欲的に参加し一定の成果を収めることができた。</p> <p>生徒会でも教師の適切な指導の下に、生徒の自発的、自治的な活動が展開できた。</p> <p>部活動入部率も評価指標には達することはできなかったが、昨年度(61%)に比べると増加している。特に1年生は全員が部活動に加入している。主な活動実績からも分かるように、熱心に継続した活動を続け、県下でも顕著な成績を収めることができている。</p>	<p>○楓際に於ける教職員・生徒・卒業生・保護者との連携がすばらしい。</p> <p>○1年生全員部活動入部の継続を期待する。</p> <p>○特別活動教育は学校生活に生き甲斐や潤いを与えることができる大切な教育であるため、大切にしてもらいたい。</p> <p>○生徒の役割を明確にして、活動に自覚を持たせることが重要である。</p>	<p>○生徒会執行部の活動は会長を中心に活動できているが、各種専門委員会の活動に開きがある。それぞれの役割を明確にし、自覚を持たせた活動をさせていきたい。</p> <p>○部活動を継続できる生徒が年々減少し特に団体競技の活動が困難になってきている。部活動の精選などを踏まえ、環境作りへの創意工夫が必要である。</p> <p>○学校行事については、学校や地域及び生徒の実態に応じて、各種類ごとに、行事及びその内容を重点化するとともに、行事間の関連や統合を図るなど精選して実施していく。</p>
	評価指標	評価指標の達成度	評定	総合評価																		
(1)ホームルーム活動満足度 80%以上	(1)ホームルーム活動満足度77.8%	B	B																			
(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 80%以上	(2)生徒会の活動状況 学校行事の満足度 79.1%	B																				
(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6回以上	(3)各種専門委員会の活動状況 年間活動回数 6.4回	B																				
(4)部活動の加入状況 80%以上	(4)部活動の加入状況 74.7%以上	B																				
	(下位組織レベル) (1)ホームルーム活動の活性化を図る (2)各種専門委員会活動の推進を図る (3)生徒会活動・部活動の活性化を図る	<table border="1"> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td>(1)よりよい人間関係づくりに努める。</td> <td>(1)新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年?、2年?、3年39時間、年間計画に沿って行うことができた。</td> </tr> <tr> <td>(2)生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。</td> <td>(2)生徒会執行委員会を年間28回暖室にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動できた。</td> </tr> <tr> <td>(3)各種専門委員会の活動の充実に努める。</td> <td>(3)人権6回・美化10回・保健8回・体育3回・図書12回・交通安全3回・進路3回、各委員会に差はあるが、年間活動計画表を提出、実施し全体的には概ね達成できた。</td> </tr> <tr> <td>(4)部活動の充実に取り組む。</td> <td>(4)入部率(74.7%)増8部、減0部、増減なし4部。 「主な活動実績」 情報処理(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) レスリング(全国大会個人出場) 弓道(県春季大会団体3位)</td> </tr> </table>	活動計画	活動計画の実施状況	(1)よりよい人間関係づくりに努める。	(1)新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年?、2年?、3年39時間、年間計画に沿って行うことができた。	(2)生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。	(2)生徒会執行委員会を年間28回暖室にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動できた。	(3)各種専門委員会の活動の充実に努める。	(3)人権6回・美化10回・保健8回・体育3回・図書12回・交通安全3回・進路3回、各委員会に差はあるが、年間活動計画表を提出、実施し全体的には概ね達成できた。	(4)部活動の充実に取り組む。	(4)入部率(74.7%)増8部、減0部、増減なし4部。 「主な活動実績」 情報処理(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) レスリング(全国大会個人出場) 弓道(県春季大会団体3位)										
活動計画	活動計画の実施状況																					
(1)よりよい人間関係づくりに努める。	(1)新学習指導要領に合わせたホームルーム活動計画を行い、1年?、2年?、3年39時間、年間計画に沿って行うことができた。																					
(2)生徒会活動の活性化を図り活動計画を作成し充実に努める。	(2)生徒会執行委員会を年間28回暖室にて開催し、各行事の計画・準備・運営にあたり、会長を中心に意欲的に活動できた。																					
(3)各種専門委員会の活動の充実に努める。	(3)人権6回・美化10回・保健8回・体育3回・図書12回・交通安全3回・進路3回、各委員会に差はあるが、年間活動計画表を提出、実施し全体的には概ね達成できた。																					
(4)部活動の充実に取り組む。	(4)入部率(74.7%)増8部、減0部、増減なし4部。 「主な活動実績」 情報処理(全国ワープロ競技会・全国情報処理競技会出場) レスリング(全国大会個人出場) 弓道(県春季大会団体3位)																					

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
生活力の育成	(全校レベル) (1)環境教育の推進を図る。 三好高校エコスクールの推進 新学校版環境ISOの推進 (2)学校防災への取り組み 防災教育の推進を図る 地域防災との連携を図る (下位組織レベル) (1)校内外の美化活動を推進する。 (2)省エネルギー・リサイクル運動を推進する。 (3)防災学習の計画を立て実践に取り組む。	評価指標 (1)美化活動・エコ活動の達成度 90%以上 (2)節電昨年度比 10%減少 (3)HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% (4)防災避難訓練における生徒の参加率100%	評価指標の達成度 (1) 美化活動達成度90%・エコ活動の達成度 90% (2) 節電昨年度比±0% (3) HRにおける防災・救急救命学習時間の実施 100% (4) 防災避難訓練における生徒の参加率93%	評定 A B A B 総合評価 B (所見) 年間を通して教職員や生徒が共に環境美化に取り組めており、破損箇所などは即修復できていた。環境美化を推進することで生徒の美化に対する意識も高まり、学校生活も落ち着いて過ごしている。分別やエコキャップの回収はほぼ出来ているが徹底はできていない。電気使用量については記録をしているが啓発はできなかった。こまめな消灯については常に意識して行動できた。防災についての知識はついてはいるが防災意識を高めるまでには至らなかった。すべての教職員が防災に対する意識を高く持ち、有事に対応できる体制は出来ている。	○環境に対しての意識は家庭教育にもよるところが多いので、大変であると思うが、資源ゴミの分別をしっかりと行う習慣作りを家庭とも協力して行うとよいのではないか。 ○農業教育と環境教育は車の両輪であり、強力に推進してほしい。 ○防災教育は命に関わる大切な教育であり、常に配慮をしてほしい。 ○活断層についての正しい理解と様々な機会を通じて危機管理意識を持たせることは重要である。	○美化委員を中心として活動を広げていきたい。 ○昨年度との比較について報告し、節電について啓発していきたい。 ○生徒の意識が向上するような計画を立て、実施していきたい。 ○防災についての啓発ができるような訓練を実施したい。
		活動計画 (1)-①校内外の清掃美化実践をする。 -②施設設備の補修等即対応する。 -③ゴミの分別100%を目指す。 -④エコキャップ・廃食油の回収と活用を実践する (2)-① 毎月の電気使用量についてデータを配布する。 -②こまめな消灯の徹底など啓発活動を行う。 (3)-①防災学習をして意識を高める。 -②救急救命の適切な指導をする。 (4)-①有事の際に対応できる防災避難訓練を計画。 -②災害発生時の生徒・職員の生命・身体を安全を確保を目的とした防災研修を実施する。	活動計画の実施状況 (1)-①校内外の清掃美化実践ができた。 -②施設設備の補修等即対応できた。 -③ゴミの分別70%で達成できた。 -④エコキャップ・廃食油の回収と活用について80%達成できた。 (2)-① 毎月の電気使用量についてデータを配布できなかった。 -②こまめな消灯の徹底など啓発活動を行えた。 (3)-①防災学習をして意識を高めた。 -②救急救命の適切な指導を行えた。 (4)-①有事の際に対応できる防災避難訓練を実施できた。 -②災害発生時の生徒・職員の生命・身体を安全を確保を目的とした防災研修を実施できなかった。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策
生活力の育成	(全校レベル) (1)生徒一人一人が健康で安全な学校生活をおくる保健厚生への取組の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	評定 総合評価 B	○健康に対する理解度が高まっていけば、いずれは正しい知識による行動に結びついていくと思う。 ○健康教育は私たちが生きていくうえで最も大切なことであり、計画的・継続的に実践されなければならない。特に、救命救急法の習得は大切である。
		活動計画	活動計画の実施状況		
	(1)個々の健康管理を支援する。 (2)健康教育の充実に努める。 (3)性に関する指導を推進する。	(1)保健関係ホームルーム活動 各学年・年2回以上 (2)保健だよりの発行 年12回 (3)疾病やけがの手当等の理解度 90%以上 (4)性に関する指導の理解度 90%以上 (5)救命救急法等の研修実施 年1回以上	(1)各学年・年間2回以上(講演会含む) 1年3回・2年及び3年2回 (2)保健だより発行 11回 学校保健委員会だより発行 1回 計12回 (3)疾病やけがの手当等の理解度 97.3% (昨年比 +4.2%) (4)性に関する指導の理解度 98.6% (昨年比 +8.3%) (5)救命救急講習の実施 計2回 教職員 1回 部活動所属生徒 1回	(所見) 評価指標関連については概ね達成できた。特に健康教育における生徒の理解度は、昨年度と比べて非常に高くなっている。しかし理解度が向上している一方で、行動には結びついていない生徒がいることも事実であり、正しい知識を習得しても、それを行動変容に結びつけることについて課題が残った。救命救命法の研修では、緊急時の連絡体制や対応について、教職員一人一人が改めて確認することができた。また、講師の消防署の方々と医療機関搬送時の学校側の対応について等、助言を受けることができ、連携を深めることができたと感じている。	○ 習得した正しい知識を適切な行動に結びつけられるようにすることが重要である。活動内容が生徒の主体性を尊重するものになっているかに留意し、今後も計画的な指導を行う。 ○ 性に関する学習については、生徒の発達段階を考慮するとともに、今後も「性」＝「生」、「自分を大切にすること」という視点に立って、理解度の維持やさらなる向上に努めたい。 ○ 救命救急法の研修については、引き続き実施するが、マンネリ化しないよう検討する必要がある。
	(1)生徒の実態に応じた保健指導を行うとともに、保健室の利用について指導を行う。 (2)健康教育ホームルーム活動、性に関するホームルーム活動を計画的に実施する。 (3)学校ホームページや生徒への配布物を通して、健康に関する情報発信を行う。 (4)生徒の健康課題や保健室の実態を保健指導に生かし、生活の改善を図る。 (5)各学年において系統的な性に関する指導を実施するため、年間計画を策定し、関連する各教科と連携を図る。 (6)救命救急への適切な指導を行う。 (7)学校保健・安全計画を作成し、計画的な指導を行う。	(1)全教職員へ保健室利用について周知することで共通理解を図った。同様に、新入生オリエンテーションでの全体指導、保健室来室者へは個別指導を行った。 (2)ホームルーム活動において、熱中症予防や性・心に関すること等、ホームルーム担任の指導に加えて、講演会活動では外部の専門家を積極的に活用することができた。 (3)学校ホームページに講演会の様子や生徒の感想を掲載した。また、保健だよりを毎月1回発行し、継続的に情報発信をすることができた。 (4)朝食に関するアンケート結果について、学校保健委員会を開催し、教職員や保護者と生徒が協議した。話し合われた内容は全教職員に周知するとともに、生徒に対してはホームルーム担任から指導をしてもらうことができた。 (5)性教育委員会を開催し、学年や各教科と連携を図り、性に関する年間指導計画を策定した。 (6)AEDを用いた心肺蘇生法の教職員研修では、手順や手技を再確認するだけでなく、実習棟や教室で様々な場面を想定してのシミュレーション研修を実施した。また今年度から新たに、部活動所属生徒を対象に救命救急講習を実施することができた。 (7)年度当初に学校保健計画と学校安全計画を策定し、全教職員で共通理解を図るとともに、計画的かつ継続的な指導を行っている。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策		
キャリア教育	(全校レベル) (1)一人一人の生徒の能力適性を生かした進路の実現のための進路指導を推進する。 (下位組織レベル) (1)生徒の進路希望の把握に努める。 (2)進路情報の提供に努める。 (3)事業所・進学先・ハローワークとの連携に努める。 (4)生徒の実態把握に努める。	評価指標 (1)3年生進路内定率 100% (2)2年生終了時の進路希望未定者 0 (3)進路希望調査 年間2回以上 (4)面接回数 一人あたり3回以上 (5)進路ホームルーム活動 年間3回 (6)保護者への情報提供 3回以上 (7)進路説明会の満足度 80%以上 (8)事業所訪問 70社以上 (9)進路補習への参加率 80%以上 (11)マナトレ実施状況 ①実施回数 15回以上 ②7級合格率 80%以上	評価指標の達成度 (1)未定2名 進路内定率 96% (2)2年生終了時進路希望未定者 0 (3)希望調査2回+1回(業者) (4)各学年で3回以上実施 (5)年間3回以上(講演会等含む) (6)進路ニュース等を通じ25回以上 (7)進路説明会の満足度 80%以上 (8)事業者訪問 50社 (9)進路補習への参加率 80% (10)マナトレ実施状況 ①実施回数 20回(テスト含) ②7級合格率 75.9%	評定 B A A A A A B A A C	総合評価 B (所見) 今年度は生徒の進路意識の向上のため次の3点に重点を置き取り組んだ。 ①教師間の連携 ②生徒が自分で自分の未来を考えられる環境作り。 ③地域とのネットワーク作り。 上記の目標を達成するために取り組んだ具体的なこと。 ①学年主任との意見交換 ②進路講演会の実施 ③「三好高スタンダード」の提唱 ④スケジュール手帳の配布 ⑤進路掲示板の活用 ⑥進路ニュースの配布 ⑦進路ファイルの活用 ⑧長期休業中の学習時間調査 ⑨レポートの作成(1,3年) ⑩三好市役所地域振興課 徳島県西部県民局 NPO法人マチトソラ 地域サポートステーション等との連携。 ⑪ハローワークとの連携 以上により 評価指標には示せていない部分でも三好高校の進路活動に貢献できたと感じている。	○地元に残って活躍できる生徒を育ててもらいたい。 ○生徒を一人前に就職できるまで育ててくれる先生方の指導力はすごいと思う。 ○生徒個人の適性、生徒・保護者の希望、進路先の企業・学校との思いを一致させることは不可能である。 ○人間力の育成はすばらしく思う。 ○専門教育に対する興味と関心を高めるためには、社会で成功している人々を招聘して体験を聞く機会を増やして生徒の意欲を高め、自ら学び行動できる生徒の育成が大切だと考える。	○就職においても進学においても、自分の希望だけでは未来は開けないことを生徒に認識させ、会社や大学・専門学校に見合う自分にするために何をすべきか考えさせることが必要である。そのためには、教師による適度な情報発信と適切な評価を与えることが重要となる。 ○いずれにしても進路達成に必要なものは学力と精神力と人間力である。私たち教員は保護者と心を一つにし、日々の教育活動を充実させ遅滞なく実践していくことが必要である。
		活動計画 (1)個人面談・三者面談等を積極的に行い、生徒や保護者の希望を実現できるよう、3学年団と協力を密にする。 (2)面談の結果から進路指導の基礎資料を作成し、個々の能力と適性に合致した進路決定に努める。 (3)定期的に進路希望調査を行う。 (4)進路指導計画を作成し、進路面接の充実を担任に依頼する。 (5)進路ノートを活用し3年間の系統的なホームルーム活動を実施する (6)進路ニュース等を配布し生徒および保護者へ進路情報を提供する。 (7)進路説明会の資料を充実させ保護者の満足度を高める努力をする。 (8)先生方に協力を依頼し、これまでに関係のあった事業所だけでなく、新規開拓にも力を入れる。適性検査等を実施して進路意識を高める。 (10)日々の宿題でもマナトレを配布し基礎学力の向上に努める。	活動計画の実施状況 (1)進路課の情報発信と適度な情報交換により3年団との協力を密にできた。また担任の努力により個人面談の回数を増加することができた。 (2)面談結果から基礎資料を作成し学年団に配布した。その結果、適切な進路決定ができた。 (3)各学年で進路希望調査ができた。 (4)特に3年生では7月以降の進路指導計画を明示。進路面接は充実。 (5)進路ノートの活用に加え、スケジュール手帳の活用もできた。 (6)進路ニュースを継続的に発信することができた。 (7)進路説明会は参加者が少なく、今後の課題となった。 (8)管理職のはからいと協力により企業訪問は充実したものとなった。適性検査等は実施後資料を担任に配布した。実施だけに止まることなく活用にも重点を置いた。 (10)日々の宿題は1学期と3学期に実施。定着してきたが課題も多い。				

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) (I)特色ある農業教育の推進を図る。 (2)地域産業の担い手育成に関する地域連携を推進する。 (下位組織レベル) ①地域連携の推進を図る ②教職員の資質向上を図る ③資格取得の推進を図る ④農業クラブ活動の活性化を図る	評価指標 (1)特産品の開発と普及(5品目以上) (2)農業科授業研修の実施 年間3回 (3)学校開放講座参加者の満足度 80%以上 (4)農業技術検定合格率 70%以上 (5)学校農業クラブでの成果 県予選3種目以上入賞 (6)農場生産物販売額 年度当初計画100%達成 (7)授業に対する生徒の満足度 80%以上	評価指標の達成度 (1)5品目の開発・普及を実施できた。 (2)農業科授業研修 年間2回実施 (3)学校開放開放講座参加者の満足度 100% (4)農業技術検定合格率 90% (5)学校農業クラブでの成果 県予選3種目入賞 情報処理全国大会出場 (6)農場生産販売額 年度当初計画の87.3% (7)生徒の授業満足度 満足度77.9%	評定 総合評価 B (所見) 地域との連携においては科目「地域貢献」や「産官学連携実学モデル事業」を活用し、現場実習、販売実習、開放講座、体験入学、異校種間連携等一定の成果を収めることができた。 ホンシメジやホンモロコにおける地域ブランドや、特産品の研究においては、課題が多く、大きな進展が見られていない部分もあり、今後の継続研究が必要とされる部分である。しかし、本年度は、ハッサクの青玉果の活用、地元のそばを使った商品開発などを実施した。 生徒の資格取得については、(2月末現在)本年度延べ101名の生徒が、何らかの資格を修得することができた(昨年度103名)。	○世界的に農業分野は厳しい状況にあり、今後の展望も決して明るくはない。しかし、生きるためには一番大切なものであり、いろいろな体験や経験から学び、考える農業教育を実践して行ってほしい。 ○地元と連携して商品化を図ることは大変すばらしいと思う。近隣校も頑張っているのでは、お互い切磋琢磨して良い物を作ってもらいたい。ホンモロコやホンシメジの地域に於けるブランド化・商品化を目指してほしい。 ○酒造りに関しては酒米の生産から自分の学校で行えば更に理解が深まるのではないかと。	○26年度より実施される学校設定科目「薬用植物学」については、いかに地域と連携し、地域の活性化につなげていくか検討する必要がある。 ○農場運営については、年度当初の適正な農場運営計画と教育計画に基づき、実践しなければならない。 ○新学科に伴う農場の見直しと、それに伴う再編計画をさらに検討していく必要がある。 ○教職員の資質向上、生徒の課題解決については、PDC Aサイクルのもと、継続して実施しなければならない。
		活動計画 (1)-1ハッサクに関する商品開発 (1)-2ホンモロコ・ホンシメジの試験研究を推進する (1)-3サギソウの増殖活動を推進する (2)生徒の実態(課題)を把握し、生の課題解決と教職員の資質向上を目的とした授業研修を実施する (3)学校開放講座の実施により、地域連携・開かれた学校作りを推進する (4)農業技術検定に対応した補修体制を構築する (5)生徒の意識の高揚を図り、学校農業クラブ活動を活性化させる (6)農場の適正化を図り、施設・設備の充実に努める	活動計画の実施状況 (1)-1地元のホテルなどと連携し、商品化を図ることができた。 (1)-2ホンモロコは地域の養殖農家(4戸)へ、ホンシメジは推進協議会を開催するなど普及に努めた。 (1)-3地元中学生と連携し増殖活動を行った。 (2)授業研修は、年間2回の実施に止まった。 (3)参加者のニーズに対応した開放講座を実施することができた。 (4)週2回補習を実施し、一定の成果を収めることができた。 (5)情報処理では、全国大会に出場するなど一定の成果を収めることができた。 (6)生徒数減・新設科目への対応など、農場の適正化を検討中である。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。

平成25年度学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
キャリア教育	(全校レベル) 1) 生徒一人ひとりの理解力と興味関心に応じた授業の工夫により生徒の学習に対する意欲を高める。 (下位組織レベル) 1) 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる 2) 各種検定・資格の取得を積極的に推進する。 3) 実践的・体験的学習を充実させる	評価指標 1) 授業評価による生徒の授業満足度 80%以上 2) ワープロのタッチメソッド操作 100% 3) 3年生の3種目以上1級検定合格率 40%以上 1・2年生の各検定合格率 90%以上 4) 販売実習の実施 10回以上 5) 競技会の全国大会出場 3大会	評価指標の達成度 1) 授業評価による生徒の授業満足度 95.7% 2) ワープロのタッチメソッド操作 100% 3) 3年生の3種目以上1級検定合格率 27.8% 今年度の各検定合格率 78.5% 4) 販売実習の実施 10回 5) 競技会の全国大会出場 2大会 ワープロ団体 情報個人	評定 総合評価 A B (所見) 3種目以上1級合格者は3年生18名中5名で、うち6種目1名、4種目1名、3種目3名であった。また、本年は情報ビジネス科1期生である2年生は6名、2期生の1年生は3名が既に3種目の1級を取得している。反対に1・2年生の検定毎の合格率は昨年より下がっている。これは、より高い上級検定への挑戦であるためと言えよう。今後もこの状況が続くと思われる。しかし、生徒の努力と先生方の粘り強い指導は継続できている。 本年は生徒の授業満足度が向上した。これは先生方の日々の創意工夫による授業展開が効を奏したと言える。引き続き更なる満足度を目指し努力していきたい。 各種競技会出場に向けても熱心な指導により、左記のような優秀な成績を得ることができた。生徒数減少の中、厳しい状況を克服しての結果である。次年度以降も期待したい。	○これだけの成果を上げているということは、先生方の持つ指導力がすばらしいのだと思う。 ○競技会で連覇を重ねていくことは大変なことだと思う。先生方のご苦勞がよく現れている。 ○授業に対する満足度が向上したことは、学習に対する意欲の向上と思われる。益々の発展を期待している。 ○資格取得に力を入れることは本当に大切なことだと思う。	○上位級取得と、販売実習等による地域貢献の両立ができるよう工夫する。 ○外部団体主催検定の合格数アップと、競技会の入賞を目指す。 ○出張販売や校内店舗の充実に努める。
		活動計画 1) 生徒の実態にあった授業を展開する。 2) オリエンテーションで生徒の意識を高め、効果的な指導を行う。始業時、終業時における挨拶の徹底を図る。 3) 検定前補習や個別指導を適宜行う。 4) 校内販売所での実習に加えて池田商店街への出店を計画実行する。 5) 各種競技会に向けて選手の競技力向上を図る。	活動計画の実施状況 1) 習熟度別やT.Tの授業を展開することにより、きめ細かい指導が実施できた。 2) 毎時間、服装や挨拶を通してビジネスマナーの向上を目指したが、十分に徹底できたとはいえない。 3) 国家資格である基本情報技術者やITパスポート試験に1名合格した。 4) 校内販売や東西祖谷出張販売に加えて阿波池田ぎんざ商店街の空きスペースで出張販売を行い地域貢献に努めた。 5) 各種競技会に於いては、ワープロ競技会県大会5連覇を成し遂げ、2チーム出場した団体の部で1位2位、個人の部でも1位から3位までを本校生が独占した。さらに、四国大会に出場し3位入賞という輝かしい成績を収め、本年も引き続き全国大会に出場した。また、情報処理競技会に於いても、個人第2位の成績を収め全国大会出場を果たした。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要。

平成25年度 学校評価総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	今後の改善方策	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) (1)教育活動の公開及び情報発信により本校教育への理解と関心を高める (下位組織レベル) (1)小中学校へ情報発信を行う。 (2)地域社会との連携による諸行事に参加し学校の活性化に取り組む。 (3)学校Webページを活用して情報発信に努める。 (4)PTA活動の活性化に取り組む。	評価指標 (1)学校Webページの情報発信状況 年間60回以上 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 20回以上 (3)文化祭(楓祭)での来校者の満足度 70%以上 (4)学校開放講座の参加者の満足度 80%以上 (5)保護者の学校行事等への参加状況 年間100人以上	評価指標の達成度 (1)学校Webページの情報発信状況 年間57回 (2)本校行事等に対する報道機関等の取材回数 29回(2月17日現在) (3)文化祭(楓祭)での来校者の満足度 77% (4)学校開放講座の参加者の満足度 100% (5)保護者の学校行事等への参加状況 年間128名	評定 B A A A A 総合評価 B (所見) PTA活動においては、役員・保護者への負担も考慮し、例年並みの内容であったが、役員の方々の、積極的な取組により、楓祭・体育祭など充実した活動内容となった。 また、専門高校の特性を生かした地域連携など、新聞、テレビなど、メディアで報道された回数も多く、HPなどとあわせ、本校な活動を十分に発信することができた。 今後、高校再編にそなえ、PTA活動の精査、HPの内容などを再考する必要がある。	○学校行事等への参加者が増えたのは家庭訪問等で連携をとれているから、良い方向で繋がりができているのではないかと。 ○保護者の学校行事への参加、学校開放講座の参加者満足度の高さはすばらしいと思う。 ○専門高校において開かれた学校づくりは大切である。本校においては十分できていると思うが、今後も継続して地域の学校としての存在感をいっそう高めていってほしい。 ○地域との活動を積極的に取り入れ、公開、発信できていると思う。	○PTA総会では、各学年と連携し、保護者が積極的に参加できる内容となるよう検討する必要がある。 ○高校再編に備え、PTA活動、HPのあり方について、検討する必要がある。
		活動計画 (1)担当者との連携を図る。 (2)-1幼稚園、小学校に食農教育の教材の提供を行う。 (2)-2地域の文化祭等の催し、行事に参加をして本校教育の理解を図る。 (3)楓祭において、販売・展示の充実を図る。 (4)体験入学、開放講座などを実施して本校教育への理解を図る。 (5)-1役員会等の活性化を図り、参加者の増加を進める。 (5)-2保護者への通信、チラシ等の資料を作成し配布する。	活動の成果・課題 (1)生徒の活動を保護者・地域に発信できた。 (2)科目「地域貢献」、教育委員会指定事業を活用し、異校種との交流を深めることができた。 (3)生徒数等の減により、例年並みの内容にとどまった。 (4)地元中学生を招いての体験入学、地域住民を対象とした開放講座ともに、当初の目的を達成することができた。 (5)-1例年どおりの実施内容であった。 (5)-2十分に実施できなかった。			

【備考】 総合評価における「評定」の基準】 A：十分達成できた。 B：概ね達成できた。 C：今後の努力が必要